

第13回国立市健康危機管理対策本部会議記録

日時	令和3年4月2日（金）午後2時30分から午後3時40分
場所	市議会委員会室
出席者	永見市長、竹内副市長、藤崎行政管理部長、宮崎政策経営部長、松葉子ども家庭部長、大川健康福祉部長、葛原地域包括ケア・健康づくり推進担当部長、黒澤生活環境部長（健康福祉部ワクチン接種対策室長）、門倉都市整備部長、江村都市整備部参事、矢吹会計管理者、橋本教育次長、内藤議会事務局長、佐伯オンブズマン事務局長、玉江選挙管理委員会事務局長、田代監査委員事務局長、立川消防署：玄海予防課長、瀧岡国立出張所長
付議事項	<p>（1）4月21日までの国立市の対応方針について</p> <p>①東京都の感染状況について ・東京都モニタリング会議資料（資料No.1、3-1~3-3）</p> <p>②国立市の感染状況について ・東京都から提供される国立市の患者数・患者情報のまとめ（資料No.2） ・国立市医師会長コメント（資料No.4）</p> <p>（2）新型コロナウイルスワクチン接種について（資料No.6）</p> <p>（3）その他</p> <p>①市報での情報発信について（資料No.6）</p> <p>②コロナ渦における女性用品配布事業について（資料No.8）</p> <p>③連休中の対応について</p> <p>④立川消防署からの情報提供</p> <p>（4）本部長指示及び対応方針について</p>
主な内容	<p>（進行：大川健康福祉部長）</p> <p>1 本部長あいさつ（永見市長）</p> <p>緊急事態宣言が解除され、終息の方向に向かうかと思われたが、昨日の市内の新規感染者が5名ということで、爆発的な増加に近い状況である。今後どこに焦点を当て、対応していくことが望ましいか、それぞれの所管部署で見ている市民の生活の状況等をベースにして、建設的な意見を出し合い集約していきたい。</p>
2 議 題	<p>（1）4月21日までの国立市の対応方針について（事務局：橋本健康づくり担当課長）</p> <p>① 東京都の感染状況について 東京都モニタリング会議資料（4月1日開催分） 資料No.1、3-1~3-3のとおり。</p> <p>②国立市の感染状況について ア 東京都から提供される国立市の患者数・患者情報 資料No.2のとおり。 イ 国立市医師会長 春日井先生のコメント（事務局：矢吹保健センター主査） 資料No.4のとおり。 東京都の対策（資料No.5）に準じる。</p>
	<p>（2）新型コロナウイルスワクチン接種について（事務局：黒澤ワクチン接種対策室長） 資料No.6のとおり。 4月1日からコールセンターを開始しているが、問い合わせまだほとんどない。1箱目のワクチンについては、高齢者施設に使用する方向で検討中である。</p>

(3) その他

①市報での情報発信について（宮崎政策経営部長）

資料No.6のとおり。

市長のメッセージ発信についても行う予定。また、国立駅前のデジタルサイネージを利用した広報についても検討する。

②コロナ渦における女性用品配布事業について（葛原地域包括ケア・健康づくり推進担当部長）

資料No.8のとおり。

大塚製薬株式会社との包括連携協定を活用できる可能性があるため、確認する。

③連休中の対応について

GW中における生活困窮の相談や健康相談、休日の医療体制等について、子ども家庭部と健康福祉部で検討中である。

④立川消防署からの情報提供（立川消防署玄海予防課長）

新型コロナウイルス感染症疑いの傷病者を搬送した場合、帰署後に救急車内をオゾン消毒している。立川消防署管内の救急隊5隊における、オゾン消毒の件数について、1月は41件、2月は22件、3月は17件であった。この2月、3月の件数は昨年夏時期より少ないという意外な数値であった。しかし変異株の感染が増えることが懸念される中で、この数字が終息の前兆を意味することになるとは思えない。引き続き注視していきたい。

⑤事務局からの連絡（大川健康福祉部長）

資料No.7について、各所管部署で状況を追記してもらい、次回の運営部会・本部会議で共有したい。

(4) 本部長指示及び対応方針について

陽性者の動向について、年齢や感染源等に注視し、状況に合わせた要請や啓発が必要である。日常の活動と、感染対策を両立・並行しきよう発信しなければならない。家庭内感染への注意喚起も必要。日々変化する状況に対して、きめ細かな対応をお願いしたい。

以上